

報告

天文教育フォーラム報告

天文教育フォーラム実行委員
沢 武文（愛知教育大学）

和歌山大学で行われた日本天文学会春季年会において、天文教育フォーラムが、日本天文学会との共催で3月27日17:00~18:00に行われた。フォーラムのタイトルは「大学と地域連携による天文教育普及」であった。このフォーラムは、「天文・宇宙」をキーワードとして地域と連携し、「天文の教育と普及」の活動を活発に続けている3つの事例を通して、このような活動に対する参考にしてもらおうというものであった。最初の事例として、みさと天文台の矢動丸泰さんに、和歌山大学の地域連携プロジェクト「宇宙教育研究ネットワーク」の立ち上げの経緯やその活動について、報告していただいた(図1)。以前からの、みさと天文台と和歌山大学との草の根的な活動が、このようなプロジェクトにつながったとの報告があった。やはり、ふだんからの地道な活動が重要であると感じた。

次に、山形大学の柴田晋平さんには、山形大学と「NPO 法人小さな天文学者の会」の連携事業の活動内容や活動における問題点について報告していただいた。「宇宙のことを学べ

てハッピー」、「学べたことを人に伝えて喜んでもらい、またハッピー」という、ハッピーの2乗の法則を大切にしているとのことだった。また、「講師を呼んで催す講演会などでは、受付や駐車場の案内などの雑務はすべてアルバイトを頼み、会員全員が講演を聴けるようにしている。これは、一番聴きたい人がそのような雑務で聴けないのは本末転倒だから」という話は、特に印象に残った。

最後に、東京大学の宮田隆志さんには、「NPOサイエンスステーション」の組織や活動についての紹介をしていただいた。ほとんどのメンバーが大学生や大学院生で、天文や宇宙に限らず、科学一般について、出前授業や出前実験などを通して活動を行っているとのことであった。

1時間という限られた時間であったため、十分な質疑の時間がとれなかったが、特にNPO法人について、予算や会費など、運営資金に関する質問が多数出され、その関心の高さがうかがえた。また、サイエンスステーションの活動について、「活動に重点を置きすぎて、研究がおろそかになる学生はいないのか?」という、研究を指導する教員の立場からの質問もあり、印象に残った。

参加者数はおよそ200名であった(図2)。

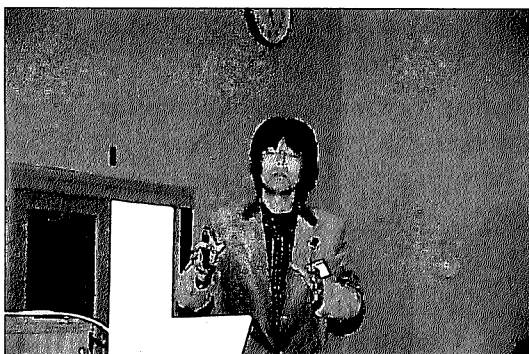


図1 矢動丸さんの講演の様子



図2 会場の様子